

## 博士課程教育リーディングプログラムフォローアップ報告書(平成24年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	超域イノベーション博士課程プログラム	申請大学名	大阪大学
申請大学長名	平野 俊夫		
プログラム責任者	東島 清		
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>博士課程教育リーディングプログラムは、突出した教育プログラムを実施し日本の高等教育のあり方を改革しつつ、その内容を高めていくことを目的としたものである。従って、採択された大学は高い使命感を持ち、大学全体の責任においてこのプログラムの実現に全力で取り組むことが期待される。</li> <li>本プログラムは、平成24年4月に20名の大学院学生を受け入れたばかりであるが、優秀な学生を選考し、担当教員には新たな教育に取り組もうとする熱意が感じられ、大学執行部もこれを支援しようとする姿勢が見られた。ただし、本プログラムの成功のためには、更に下記の点での努力が必要と考えられる。</li> </ul> <p>2. 意見(改善を要する点、実施した助言等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本プログラムの担当教員、大学執行部、そして大学院学生の3者とも本プログラムの成功のために努力しているが、もっとも懸念される点は、関係者の意思疎通及び連携が必ずしも十分ではない点、認識に隔たりがある点である。</li> <li>学生は主専攻において研究を続ける一方で、本プログラムを副専攻としてこれに参加しており、両専攻の時間配分が困難であるように見受けられる。「リーダー養成」という大きな目的を主専攻の教員が十分に理解して、副専攻の教員と連絡を密にし、協力しながら教育を行うことが求められる。これは、特に理工系を主専攻とする学生にとって大きな問題であり、そのような配慮がなされない場合、学生にかなりの時間的な無理がかかる恐れがある。</li> <li>優秀な学生が学修研究に専念できるよう、個々の学生の環境に合わせたメリハリのある奨励金給付や授業料減免の実施等経済的支援の充実について検討する必要がある。</li> <li>学生は本プログラムに大きな期待を寄せ、様々な自主的な取組を考えている。それらをうまく取り込むことが本プログラムを更に充実させるために有効であると考えられるが、学生にとっては、ここでも時間的な問題があるとともに、大学側でこれを具体化する方策が考えられていない。この点についても、すみやかに改善策を考えることが必要である。本プログラムに直接参加してはいないが、これに興味を持つ学生が多くおり、そのような学生の参加も促す体制を構築することも重要である。本プログラムが閉鎖的にならないよう常にオープンな姿勢を保ち、多様性を確保することを目指すことが必要である。</li> <li>本プログラムを通じて、その精神を大学全体の教育改革に繋げていくことが重要であり、そのことが、本プログラム自身の成否にもかかわっていくものと思われる。真のリーダーの育成は、スキル、コミュニケーションなど表面的な技術の鍛錬だけではなく、真の教育改革が必要なことは論を待たないが、その意味においても、本プログラムと同時に大学全体の本質的な教育改革を行うことが重要であり、大学、特に執行部の強い意志と情熱が求められる。</li> <li>建物など、環境整備については、まだ貧弱である。予算的に十分な手当がされていないが、全学の教育改革の契機となるプログラムであり、大学の責任において、十分な環境整備がなされることが期待される。</li> </ul>			

- 本プログラムの終了後、グローバルリーダーとしての活躍を意識できるようにするためにも、広く産業界、官界、政界から可能な限りの講義を企画し、議論できる機会を設けることを検討すべきであり、学生もそれを期待している。
- 本プログラムに対する学生の期待は極めて大きく、これを裏切る結果に終わらないためにも、大学執行部、プログラム担当教員、主専攻の教員、そして学生の緊密な意思疎通が必須であるとともに、成功の前提となる多くの課題について大学執行部の調整と決断が必須である。